

# 日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS STUDY

## 日本経営倫理学会の新体制と第21回統一テーマ： 「経営倫理とダイバーシティ・マネジメント」について

会長 高橋 浩夫(白鷗大学)

### § 会長就任にあたって

会長職は最大3期6年と会則で決めています。はからずも3期目も仰せつかることになりましたので、これからの2年間、会員の皆様のご支援とご協力よろしくお願ひします。組織は総合力です。学会でも会員の方々の参画意欲が生まれなければ研究活動は沈滞します。そうならないための仕組みを作ることが私の責務だと思っています。4年間を振り返ってみますと、産学共同路線の継承、若い研究者の育成、外国籍の研究者との交流、海外学会との交流、研究発表大会のレベルアップなど少しは活発な研究活動を行って向上してきたと思います。これは理事の先生方のご尽力はもちろん会員一人一人の積極的な参画意欲があったからこそだと思います。学会はピラミッド組織ではありません。会員同士の自由な活発な意見交換こそが研究の刺激となり参画意欲が生まれます。学会が面白い、刺激になる、何力得られると言うような学会にしたいものです。

### § 経営倫理とダイバーシティ

さて、第21回の統一テーマは「経営倫理とダイバーシティ・マネジメント」です。このテーマを決めたのは現在の日本の経営のホットな課題という他にグローバル化の急速な進展があります。経営のグローバル化はダイバーシティ・マネジメントと言って良い程多様な文化・社会、様々な経営スタイルと人材構成の中で仕事をしなければなりません。今、日本の経営はこのような状況の中に直面しています。それでは、ダイバーシティと経営倫理をどう結びつけるかと言うことです。

経営倫理と言うと様々な不祥事を思い起こしますが、考えてみますとこのような多くの不祥事は法律違反、つまり違法な行為を行った結果が問題視されています。違法行為は制裁を受けます。法律は強制力があります。ところが倫理は外から強制されるものではなく我々一人一人の心の中にある行動規範です。しかし、外から強制されないからと言って何でも行って良いと言うことではありません。我々は社会の一員です。社会には社会規範があります。それはそれぞれの国の歴史と文化、伝統によって違います。社会規範は言わば我々がその社会で生きる“常識”と置き換えても良いと思います。従って、倫理はそれほど難しいことではなく、一つの常識を照らして考えればわかることです。ただ、常識も時代の進展によって進化するものです。過去の常識、今の常識、これからの常識が少しずつ違ってくると思います。ダイバーシティという問題は日本の社会進展の中で常識から考えてもおかしい、様々な不平等を正さなければならぬことから生まれてきたと思います。

### § 同質文化を超えて

他方で、ダイバーシティはグローバルな競争の中で女性の活用、外国人の活用、中途採用の活用などにより企業経営の打開策としても要請されています。同質文化の中で育った日本の経営もグローバルな社会規範とのギャップの中で機能不全の関与があると指摘したキーノートスピーカーのシカゴ大学の山口一男氏の考え方に同感します。

また、一橋大学のアメージャン教授のダイバーシティ論は人間の本質からして難しいこと、しかし行わなければならないことと指摘。岩田喜美枝氏は前資生堂副社長の経験とご自分の経験もふまえて女性の活躍の場を具体的に示されました。さらに日産自動車の桐竹里佳氏は同社のダイバーシティの取り組みについての事例を紹介され、理論と実証の裏あるシンポジウムだったと思います。この問題は奥深く意義のある研究テーマなので更なる追求が本学会の任務であると指摘された司会の馬越恵美子先生のしめくくりの言葉を忘れないで更なる取り組みをしましょう。



報告するC.アメージャン氏



パネル討議(左から桐竹、岩田、山口、馬越各氏)

# 平成25年度 定時総会の開催

総務担当理事 瀬名 敏夫

平成25年度の定時会員総会が、6月15日(土)(13時から14時)、白鷗大学東キャンパス201教室で開催された。出席者は155名(本人出席60名、委任状出席95名)で定足数を充たした。(会員総数:454名)高橋会長が総会の議長に選任され、「日本経営倫理学会は、学者だけでなく企業経験者も多数参加しており、理事会の運営をはじめ監査体制に至るまでしっかりと運営されている。発足以来満20年を迎えいろいろな面で充実してきているが更なる発展を目指したい。」と挨拶された。引続いて議案審議に入った。

## 1、平成24年度の活動・決算報告(議題1,2,3)

松本常任理事(総務担当)より資料に基づき平成24年度の学会活動及び決算報告が行われた。引き続き服部監事より監査報告が行われ審議の結果、了承された。平成24年度の活動としては、理事会、研究発表大会、研究交流例会、研究部会活動等が活発に実施されたことが報告された。第5回経営倫理シンポジウムは「企業不祥事と経営倫理～今求められるコンプライアンスとコーポレートガバナンス～」をテーマとして開催され、150名近い参加者があり盛会であった、学会報・学会誌は計画通り発行された、等の報告があった。平成24年度の決算については、会費の徴収は予算対比未達となったが、研究発表大会の収入の伸びがシンポジウムの収入不足を補った上でさらに26万円弱の対予算増となった。支出は各費目で節減に努め予算内に収めることが出来、68万円強の黒字決算となったことが報告された。

## 2、平成25年度の活動計画及び平成25年度学会予算(議題4,5)

活動計画として、年次総会、研究発表大会、理事会、研究交流例会、研究部会活動、国際交流の推進等、通常の活動をはじめとして創立20周年に向けての関連行事開催準備の計画や第6回経営倫理シンポジウムの計画につき説明があった。平成25年度学会予算に関しては、収入計画として、年会費収入380万円、特別収入160万円、計540万円と見積もり、支出は経費節減に努めるものの第6回経営倫理シンポジウム講師の招聘費用等で560万円となるので差引不足分20万円は特別会計からの組入れで賄うという予算案について説明があり、審議の結果、活動計画と共に了承された。また年会費収入予算を達成するためには会費の徴収率を上げる必要があり、年会費の納入と年会費の自動振替について協力が要請された。

## 3、理事監事改選(議題6)

本年は役員改選期であるので、理事については再任23名・新任6名計29名、監事は再任1名・新任1名計2名を候補とする改選案が提示され、審議の結果、原案通り承認された。

## 役員一覧(任期:2013年6月~2015年通常総会開催日)

会長 高橋 浩夫	常任理事 浜辺陽一郎	総務・研究例会	理事 文 載皓	国際・研究・シンポ
副会長 梅津 光弘	理事 馬越恵美子	国際	理事 河口 洋徳	総務・広報・学会報
副会長 中野 千秋	理事 瀬名 敏夫	総務・広報	理事 高 巖	学会賞
副会長 水尾 順一	理事 高浦 康有	学会賞・東北地区	理事 今井 祐	研究例会
常任理事 潜道 文子	理事 堀田友三郎	中部地区	理事 井上 泉	論文審査・学会報・学会誌
常任理事 山下 洋史	理事 小山 巖也	論文審査・学会誌	理事 出見世之	論文審査・学会誌
常任理事 松本 邦明	理事 吉川 吉衛	論文審査・学会誌	理事 中谷 常二	関西地区
常任理事 古山 英二	理事 高野 一彦	論文審査・学会誌	監事 服部 彰	
常任理事 葉山 彩蘭	理事 小坂 勝昭	研究交流・研究例会	監事 山本 正	
常任理事 西藤 輝	理事 蟻生 俊夫	研究・シブ・学会報		
常任理事 剣持 浩	理事 野村千佳子	国際・研究例会		(*左から役職・氏名・担当)

## 川津政義、佐藤陽一、両会員に対する感謝状の贈呈

常任理事 松本 邦明

永年にわたり日本経営倫理学会の発展に貢献された、川津、佐藤両会員に対し、学会創立20周年を記念する会員総会の場で感謝状が贈呈された。川津会員は、創設時からの会員で、現在でも、何か行事があると葉山から駆け付け、事務局の片腕となって、準備から写真撮影まで、縁の下の力となって行事を支えている。佐藤会員は企業行動研究部会、理念哲学研究部会に所属し、アクティブ会員として、現在も精力的に研究活動に精を出されている。同会員から毎年毎に届けていただく寄付金は10年以上に及び、財政基盤がぜい弱な学会活動の支えになっている。学術振興・催事準備金として、東日本大震災への寄付金、海外からの賓客の招聘など特別な行事のときに使われている。



高橋会長より感謝状の贈呈(左:高橋会長、右:川津会員)



佐藤会員とBERC事務局にて  
(左から松本常任理事、佐藤会員、手島名誉会員)

## 学会誌編集方針の変更について

副会長 / 学会誌編集・論文審査委員長 中野 千秋(麗澤大学)

学会創立 20 周年を記念し、今年度発行予定の『日本経営倫理学会誌』第 21 号より、学会誌編集にあたって以下の 2 点の変更が加えられます。

### (1) CFP 方式での論文募集について

当学会では、従来、当該年度の学会誌に論文を掲載するためには、原則として研究発表大会で報告を行なうことが条件とされてきました。しかし、学会誌のクオリティ向上と投稿機会の拡大を目指し、学会誌第 21 号より Call For Paper (CFP) 方式での論文募集を開始いたします。この決定に基づき、「研究発表大会および学会誌の企画運営と論文審査に関する規定」(以下「規定」と呼ぶ)も、次のような条文が加えられました。

**学会誌編集・論文審査委員会は、必要に応じて、コール・フォー・ペーパー (CFP) 方式で、学会員に対して学会誌掲載論文を公募することができる。(「規定」第6条2.)**

公募といえども、投稿資格は日本経営倫理学会の会員に限られるものとします。また、当学会初の試みでもありますので、当面の間、① CFP 方式で投稿された論文のうち、学会誌に掲載されるのは 5 本以内とする、② CFP 方式で投稿された論文が学会誌に掲載された場合、その著者は翌年度の CFP には応募できないものとする、などの制限を加えることにします。これは、やはり「研究発表大会で報告していただき、その成果を論文にまとめて学会誌に掲載することが望ましい」という考え方に基づくものです。

### (2) 「論説」区分の追加について

従来、当学会誌には、「論文」もしくは「研究ノート」という 2 つの区分が設けられていました。学会誌第 21 号からは、それに加えて「論説」という新たな区分を追加いたします。これに関して、「規定」においても、つぎのような条文が加えられました。

**学会誌編集・論文審査委員会は、学会誌掲載を適当と認められた論文のうち、学術論文とは性格を異にするが、政策的もしくは実践的に意義のある主張や提言等がなされているものを、学会誌の「論説」欄に掲載することにつき、理事会に諮ることができる。(「規定」第6条5.)**

会員の皆様におかれましては、このような変更の趣旨をご高察いただき、我が『日本経営倫理学会誌』の更なる充実・発展にご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 創立20周年記念(第6回)経営倫理シンポジウム開催のお知らせ

副会長 / 第6回経営倫理シンポジウム実行委員長 梅津 光弘(慶應義塾大学)

創立 20 周年記念行事の一つとして、カリフォルニア大学バークレー校の Hass School of Business で Solomon Lee Professor of Business Ethics のポジションとカリフォルニア大学バークレー校の Political science の Joint Professor であります、デービット・ボーグル (David J. Vogel) 博士を招聘し、グローバルな視点から経営倫理や CSR について考える記念シンポジウムを開催する予定です。ボーグル教授は経営倫理研究の第一人者であり、近年の著書「Market for Virtue: The Potential and Limits of Corporate Social Responsibility」邦訳『企業の社会的責任徹底究：利益の追求と美德のバランス—事例による検証』(オーム社出版、2007 年)は内外で高い評価を受けています。当日はシンポジウム終了後、記念パーティーも予定しています。多くの会員の方々にご参加いただきたいと思っております。



D. ボーグル氏

1. テーマ The Challenge of Business Ethics and CSR
2. 基調講演者 David J. Vogel 氏
3. 開催日 2013 年 11 月 16 日(土) 午後 13:00-17:00(予定) 終了後、記念パーティー
4. 開催場所 慶應義塾大学 三田キャンパス 南校舎ホール

## 第 133 回理事会(2013 年 3 月 23 日)議事録<要旨>

### 1. 新入退会者承認の件

〔新入会員〕正会員：4 名 学生会員：2 名 法人会員 1 名  
〔退会者〕正会員：3 名 学生会員：1 名 法人会員 1 名  
会員数 471 名

### 2. 2012 年度経費実績見直し

平成 24 年度の収支見直しは、収入増に対し厳しい支出管理に

より収支残が約 48 万円見込まれると松本常任理事より報告があった。更なる経費節減のため全員宛での学会誌を郵送とせず、希望者にネットで伝達してはとの提案があり、事務局で検討することとした。

### 3. 新年度の運営

松本常任理事より、本年度総会で役員改選となるが、本日の



常任理事会で全出席者が高橋会長の留任を求めるとの意見であったことを踏まえ、高橋会長の留任を求めるところにつき理事会にはかったところ、全員一致で了承された。続いて新年度の運営について意見交換を行い、次のような意見が出された。

経営倫理学をより強く社会にアピールするため、大学での経営倫理学の講座をもっと増やすよう働きかけるべき、各委員会の活動活性化のための副委員長の設定および委員の増強、論文審査の負担増に対応するため、委員の数の増加と層を厚くする、アカデミズム出身およびビジネス出身会員の相互のコミュニケーションを深め、学会運営をより円滑、体系的にする等。

#### 4. 創立20周年にむけての準備

##### (1) 論文応募状況

3月15日締切までに自由論題29編、統一論題6編、計35編。

##### (2) 第21回研究発表大会

高橋会長より、大会2日間のプログラムの概要および前日の

日産自動車工場見学について報告があった。

#### (3) 第6回経営倫理シンポジウム関連

日程・場所：2013年11月16日（土）慶應義塾大学三田キャンパス南校舎ホール

テーマ：The Challenge of Business Ethics and CSR

基調講演：David J. Vogel 教授

#### (4) 記念出版の進捗状況

「グローバル企業の経営倫理とCSR」白桃書房 校正終了

「人にやさしい会社—安全・安心・絆の経営」白桃書房 4月中旬出版予定

#### 5. その他

山脇監査・ガバナンス部会長より部会長退任の挨拶があり、JABESの論文審査委員会の強化、論文審査規程の整備、論文審査委員の選定等について要望が述べられた。

## 第134回理事会(2013年4月20日)議事録<要旨>

### 1. 新入退会者承認の件

〔新入会員〕正会員：1名 学生会員：1名

〔退会者〕正会員：2名 会員数471名

### 2. 2013年度年次総会議案の件

松本常務理事より、6月15日開催予定の平成25年度総会に付議される議案について説明があり、いずれも了承された。

#### (1) 学会活動報告

海外団体との交流については、個人としての参加は含まず、学会として参加している交流に限定して記載することとした。

#### (2) 平成24年度決算報告

収支均衡を予定していたが、研究発表大会での参加者増と明治大学からの補助金交付のプラス要因に対し、厳しい支出管理のおかげで次期繰越68万円余となった。なお、各研究協会への補助金の支給は年度末3月から総会直後の7月に行うことになったこともあわせて報告された。

#### (3) 監査報告

監事より当学会は適正に運営されていると認めるとの報告が

あった。

#### (4) 平成25年度活動計画

原案通り異議なく了承された。

#### (5) 平成25年度予算案

平成25年度は収入計540万円、支出計560万円で20万円のマイナスとなるが、これを学術振興・催事準備金特別会計より取り崩して埋める。支出増の要員は経営倫理シンポジウムでのVogel 教授謝辞費および会場費・事務費である。

#### (6) 理事・監事選任

高橋会長より、総会で会長として選任された場合は、退任申し出のあった3理事以外の理事は引き続き理事として協力願いたい、退任理事の後任については候補者を検討中であるとの発言があった。

### 3. 研究発表大会

中野学会誌編集・論文審査委員長より、研究発表大会実行委員会との合同委員会において研究発表大会発表者とプログラムが決まった旨報告があり、了承された。

## 平成25年度年会費納入のお願い

先般の年次総会で決議されました学会諸活動を推進する財源としての年会費につき納入をお願いいたします。

◇年会費：正会員・1万円 学生・3千円 法人(上場)・5万円 法人(非上場)・3万円

◇年会費支払い有無の確認は事務局(以下)まで、お問合わせください。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切換をお願いいたします。

### 【学会連絡先：東京事務局】

住所：〒102-0083

東京都千代田区麹町 4-5-4 桜井ビル 3階

電話/FAX：03-3221-1477 / 03-3221-1478

E-mail：info@jabes1993.org

担当：古山常任理事（広報）

松本常任理事（総務）

発行：日本経営倫理学会

### 編集後記

いよいよ高橋浩夫会長のもと新しい役員体制で平成25年度活動が開始しました。当学会は故水谷雅一先生が常におっしゃっていた「産学協働」の精神を受け継ぐものです。経営倫理をアカデミズムからとビジネス世界からとの両面から考究することは、一つのダイバーシティと言えるでしょう。「同質文化」「村の論理」を超え、異質なものを受け入れそして活用する文化を創造していきたいものです。

(編集担当/井上)